

■ 当会の設立趣旨と活動(事業)内容

今や全国で60万とも80万とも言われているひきこもりの社会問題化は新潟においても例外ではなく、数年前より市民団体等が中心になりながら、各種支援活動が展開されてきました。しかし、その全体的かつ総合的な支援体制は充分とは言えず、各団体の特性を活かし切れなまま各々の支援のすき間が生じているのが実体と言えます。そのため本会は、当事者(以下家族も含む)へのよりきめ細かな支援を図るため、有機的な連携体制を作り上げる必要性を強く感じました。そこで、当事者と支援者が共に支え合いながら苦しさを乗り越え、社会参加しやすい環境をつくるため、このネットワークを設立することとしました。

<p><事業内容について></p> <p>①相談・連携事業 ②普及、啓発事業 ③社会参加への環境づくり事業 ④調査、研究事業 ⑤その他の事業</p>	<p><運営委員会について></p> <p>会の運営推進のため、以下の団体で運営委員会を構成いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人KHJにいがた「秋桜の会」 ・医療法人水明会「佐潟荘」 ・NPO法人「にいがた若者自立支援ネットワーク・伴走舎」 ・新潟地域若者サポートステーション ・新潟青陵大学不登校・ひきこもり研究会 <p>★顧問: 中恒内正和(精神科医/佐潟荘 副院長)</p>
---	--

<構成団体>※個人会員は除く

- 団体正会員: NPO法人KHJにいがた「秋桜の会」/NPO法人Az(自立支援ホーム「たいむ」)/NPO法人にいがた若者自立支援ネットワーク・伴走舎/NPO法人新潟県高度情報社会生活支援センター/NPO法人にいがた・オーティズム(地域活動支援センター「スタンバイ」)K-BOX/新潟大学社会連携研究センター/アーベルの会/自活支援の会G&T/第一高等学院新潟校/通信制高校サポート校新潟中央学院/中島映像教材出版/新潟市発達障がい支援センターJOIN/新潟地域若者サポートステーション/新潟青陵大学「不登校・ひきこもり研究会」
- オブザーバー会員: 特定医療法人水明会佐潟荘/新潟市こころの健康センター/新潟市引きこもり相談支援センター (※順不同)

■ 入会のご案内

<p>当会は、財政的な援助を受けずに、会費だけで運営しております。更なる良質のひきこもり支援をするため、幅広い支援者の皆様のご入会を希望いたします。(ご連絡頂いた上、手続きをお願いします)</p>	<p><会員種別と年会費について></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>年会費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>団体正会員 (議決権有)</td> <td>6,000円/年(500円/月×12ヶ月相当)</td> </tr> <tr> <td>個人正会員 (議決権有)</td> <td>1,200円/年(100円/月×12ヶ月相当)</td> </tr> <tr> <td>賛助会員 (議決権無)</td> <td>一口3,000円(何口でも)</td> </tr> <tr> <td>オブザーバー会員 (議決権無)</td> <td>無料</td> </tr> </tbody> </table>	種別	年会費	団体正会員 (議決権有)	6,000円/年(500円/月×12ヶ月相当)	個人正会員 (議決権有)	1,200円/年(100円/月×12ヶ月相当)	賛助会員 (議決権無)	一口3,000円(何口でも)	オブザーバー会員 (議決権無)	無料
種別	年会費										
団体正会員 (議決権有)	6,000円/年(500円/月×12ヶ月相当)										
個人正会員 (議決権有)	1,200円/年(100円/月×12ヶ月相当)										
賛助会員 (議決権無)	一口3,000円(何口でも)										
オブザーバー会員 (議決権無)	無料										

【振込先】 ヒキコモリサポートネットニイガタ
 ~ゆうちょ銀行から振込の場合~
 ●銀行: ゆうちょ銀行 ●店名: 一ニ八 ●店番: 128 ●預金種目: 普通預金
 ●口座番号<記号>11210 <番号>6694461 ●口座番号0669446

■ INFORMATION

- **全体会に参加しませんか!!**
 当会では原則隔月にて全体会を開催しております。支援者相互の各種情報交換の場と学習会も兼ねています。(次回は平成24年1/16(月)18:30~です)
- **講演や講座の出前をしています!**
 当会は、県内全域を活動範囲としてとらえています。構成団体や個人会員は引きこもり支援の専門集団です。ご要望に応じて出張いたしますので、気軽にお声掛け下さい。

< 編集後記 >

念願であった会報の創刊に向けて“お試し号”が発行できました！
 今まで、“どんな会なのか、どんな活動をしているのか、よくわからない”といったご指摘を受けていました。これで少しはその疑問に応えられます。今後はもっと多彩な内容で支援者と当事者をつなぐ役割を果たすことができましたら、使命の一つが果たせることになりそうです。次回本当の“創刊号”は来年度4月頃に発行を予定しています。乞ご期待!! (A.I)

発行者: ひきこもり・サポートネットにいがた運営事務局 三膳克弥 住所: 新潟市江南区五月町1-2-9
 TEL:090-8873-4453 FAX:025-243-8690 URL: <http://supportniigata.web.fc2.com/>

ひきこもり・サポートネットにいがた会報

= 創刊お試し号 = vol.0

H23.11.20発行



<会報発刊に向けて>

「ネットワークを大きな輪に」

“不登校やひきこもりの当事者やその家族支援のために、私たちが何かできることがないのでしょうか？”4年前、新潟市「こころの健康センター」からこのような問いかけをもらいました。

それを受けて、引きこもり当事者や彼等をとりまく人たちの表現の場を作ろうではないかと、支援団体や個人を巻き込んだ形で開催されたのが、第一回「ひきこもりARTFORUM～はじめの一步展」でした。今思えばこれが始まりだったのです。

回を重ねる毎に、悩み苦しんでいる人たちの姿が改めて浮き彫りにされてきて、支援のネットワークの必要性についての認識が高まった結果、昨年8月にこの「ひきこもり・サポートネットにいがた」が立ち上がりました。

当事者の社会的な自立と家族支援を続けていくのは、一つの団体や個人では限界があると感じていた私たちは、ネットワークという大きな“力”をもってカバーしフォローし合い、問題解決に向けてさらに大きな輪を広げていかなければならないと、強く思っています。

代表 三膳克弥



CONTENTS

- 会報発刊に向けて(P1)
- アートフォーラム(P2)
 今まで(経緯と実績)
 これから(未来に向けて)
- 竹中先生講演会報告(P3)
- 構成団体紹介その①(P3)
- 設立趣旨と活動内容(P4)
- 入会のご案内(P4)
- INFORMATION(P4)
- 編集後記(P4)

アートフォーラムとは？

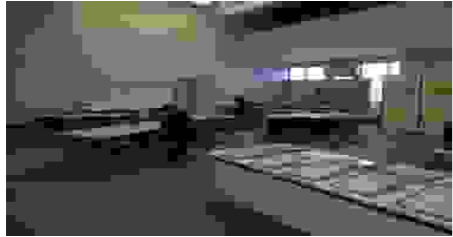
～「はじめの一步展」の歩み～

「ひきこもりの人たちの作品展覧会を開けないか」

「はじめの一步展」は、こころの健康センター職員のそんな一言から始まりました。ひきこもっている人の作品をどうやって集めるのか？雲をつかむような話でしたが、ひきこもり支援者の皆様に声をかけると、予想以上の反応があり、多くの方に集まってくることができました。何度も打合せを繰り返し、展覧会、講演、関係団体ブース、ミュージックライブを組み合わせたイベントを作り上げていきました。51点もの作品が集まり、2008年3月15日、NEXT21において最初の「はじめの一步展」を開くことができました。

第2回からは会場を総合福祉会館に移し、居場所や相談コーナーを加えて開催してきました。新潟市の呼びかけで始まったイベントでしたが、回を重ねるごとに市民参加型イベントの色彩を強め、第3回は支援団体による準備会と市の共同主催となりました。

準備会が母体となり、2010年夏に「ひきこもりサポートネットにいがた」が発足しました。「はじめの一步展」にも、サポートネットを通じて新しいスタッフが加わり、さらなる活力がもたらされました。そして2010年12月に開かれた第4回は、サポートネットと新潟市の共同主催で開かれたのです。展覧会がきっかけとなり新たな人の輪が生まれ、それが展覧会を活性化させる。「はじめの一言」が大きな実を結んだことを心からうれしく思うとともに、より一層の発展を願っています。



●オブザーバー会員：新潟市こころの健康センター 所長 福島 昇



～これから(未来にむけて)～

平成23年11月20日のプレイベントを皮切りに、「第5回ひきこもりART FORUMはじめの一步展」にむけスタートをきりました！(平成24年6月2・3日(土・日)開催)第5回は、「ひきこもり・サポートネットにいがた」が主催となり、はじめて実施するART FORUMです。「はじめて」という転換期ですので、ART FORUMプロジェクトチームは悪戦苦闘しながら楽しく(・・・)会議を重ねています。過去4回のアンケート(来場者、展覧会出品者、スタッフ)を見直すと、プラス評価と共に、4回目ではイベントに対するアドバイスや希望、辛口なコメント等頂くようになりました。それは、期待の裏返しとも取ることができ、積極的な姿勢と考えられます。有難いことです。

また、スタッフの中でも、「マンネリ化」、「展覧会の敷居が高い」、「内輪向き」などの言葉が出てきました。現に来場者も減少傾向にあります。そんな中でも4回を通じて感じるのが、来場者や展覧会出品者、スタッフの間に見えない「共感」があるということです。私たちは、この「共感」を大切にしながら、上記のような貴重なアドバイスやご意見を反映させたイベントにしたいと考えています。そして、皆さんがもう少し積極的に、このイベントに参加できるような仕組みや仕掛けを考え、「みんなで作りあげた」という一体感を味わえるような内容にしたいと考えています。現段階では抽象的な内容しかお伝えすることができませんが、これから具体的に実施内容を決める予定です。・・・ご興味のある方！一緒に考えませんか？

●個人会員：アートフォーラムプロジェクトチーム代表 伊藤希代子



竹中先生講演会報告

「経験知と理論が融合された竹中哲夫先生のご講演」

去る2011年8月28日(日)に、新潟青陵大学において日本福祉大学名誉教授竹中哲夫先生をお招きして、これからの新潟におけるひきこもり支援のあり方をテーマにした講演会が開催されました。これは、「ひきこもりサポートネットにいがた」設立一周年記念、KHJにいがた「秋桜の会」設立十周年記念、および「新潟市ひきこもり相談支援センター」オープン記念という3つの記念行事を兼ねて企画されたものです。

前半は、竹中先生による基調講演が行われ、「ひきこもり理解と支援の実際」についてお話いただきました。先生は、ひきこもり支援者のバイブルともいえる「ひきこもり支援論」の著者であります。ご講演は40年以上にわたり児童福祉やひきこもり対策に関わってこられた先生の、経験知の奥深さに触れるものでした。体験事例をまじえながらひきこもり支援の考え方を図式化し、あやとりの糸を解くようにわかりやすく説明してくださいました。端々に先生の穏やかな人柄、相手を尊重する姿勢が伝わってきたのが印象的でした。

後半は、ワークショップ「支援の実際」と題して、佐潟荘副院長で精神科医中垣内正和先生のコーディネートによる事例検討会が行われました。3事例の検討がなされましたが、会場の参加者とのやりとりが活発に行われ、問題解決に向けて会場が一体となり、手ごたえのある検討会となりました。

アンケートで「支援の方向を探る指針となった」など、参加して気付けたことなどの記述があった半面、支援者が見えない地域や公的制度の貧弱さなど現実的な問題提起もあり、今後の支援の方向を探る機会ともなりました。



●運営委員：新潟青陵大学看護学科 斎藤まさ子

構成団体紹介その①

会報発刊おめでとうございます！私がサポートネットと出会ったきっかけは、ひきこもりARTFORUMはじめの一步展で、子供や若者達の表現の場を頂き、その支援団体の会が立ち上がるの事でしたので興味が湧き入会しました。全体会や運営を通して色々な支援サポートをされている方と出会い、その優しさと志に触れることができ、とても刺激になっています。子ども若者育成支援促進法が平成22年より施行され、地域協議会の一つとして発展していくと期待しています。その為に一役買いたいという気持ちで雑用から幹事、なんでも取り組んでいきますので、今後とも宜しくお願いします。

新潟中央学院は無理なく高校を卒業し、専門学校や大学進学、そして就職の準備をサポートします。「自信・笑顔・希望の提供」をモットーに第二の家族的学び場です。

●団体正会員：新潟中央学院 高畑陽一

〒950-0086新潟市中央区花園1-5-3ネットワークビル
通信制高校サポート校 新潟中央学院 <http://shinyusya.jp>
TEL:025-243-8556 FAX:8690 E-mail:info@shinyusya.jp

